

6 スポーツ

-
- (1) 日常的な運動・スポーツの実施状況
 - (2) 継続的に実施している運動・スポーツ
 - (3) 運動・スポーツを行っている場所
 - (4) 障がい者スポーツへの意識・行動
 - (5) スポーツボランティア活動への意識・行動
 - (6) 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた区の取り組みで関心があること
 - (7) 区のスポーツ施設における高齢者免除制度に関する意識
-

6. スポーツ

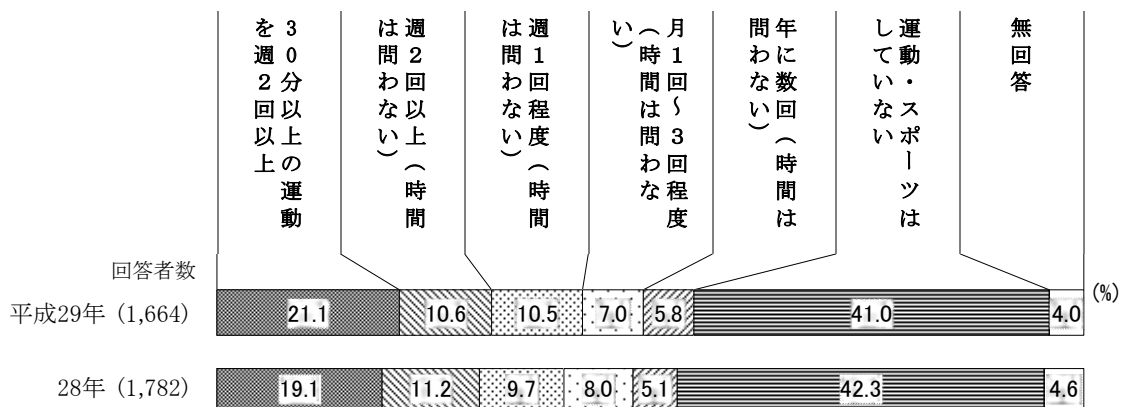
(1) 日常的な運動・スポーツの実施状況

■ 「運動・スポーツはしていない」という方が4割を超える

問22 あなたは日常的に、どの程度運動・スポーツを行っていますか（○は1つだけ）。

※ ルールにもとづいて勝敗や記録を競うスポーツだけでなく、健康づくりのためのウォーキングや気分転換に行う軽い体操、自然に親しむハイキング、介護予防のためのトレーニングなど、目的をもった身体活動の全てを含みます。

図6-1-1 前回調査比較／日常的な運動・スポーツの実施状況



日常的に行っている運動・スポーツについては、「30分以上の運動を週2回以上」が21.1%で最も高く、以下「週2回以上（時間は問わない）」（10.6%）、「週1回程度（時間は問わない）」（10.5%）の順で続いている。一方、「運動・スポーツはしていない」は41.0%を占めている。

経年でみると、大きな変化はみられない。

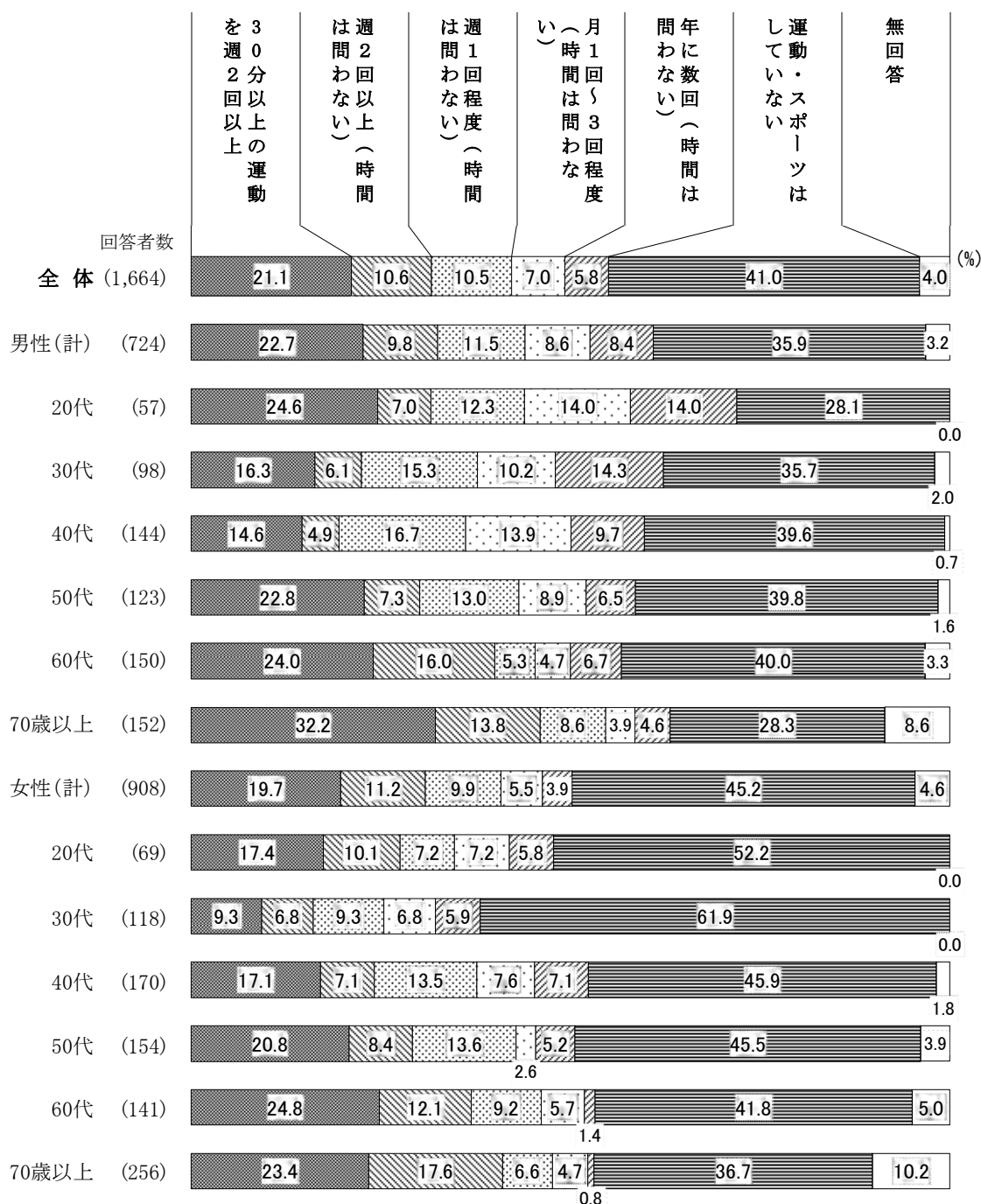
第3章 調査結果の分析 〈スポーツ〉

性別でみると、「30分以上の運動を週2回以上」が男性22.7%、女性19.7%となっている。

性・年代別でみると、男性では、70歳以上で「30分以上の運動を週2回以上」が32.2%と、他の年代より高くなっている。一方、40代から60代では「運動・スポーツはしていない」が4割前後を占めている。

女性では、50代から70歳以上の各年代で「30分以上の運動を週2回以上」が2割を超えている。一方、20代、30代では「運動・スポーツはしていない」が5割を超え、とくに30代では61.9%を占めている。

図6-1-2 性別、性・年代別／日常的な運動・スポーツの実施状況



(2) 継続的に実施している運動・スポーツ

■ 「ウォーキング」が4割台半ばで突出

問22で1～5のいずれかをお答えの方に

問22-1 あなたが最近、継続的に行っている運動・スポーツは何ですか。

(○はあてはまるものすべて)

図6-2-1-① 前回調査比較／継続的に実施している運動・スポーツ

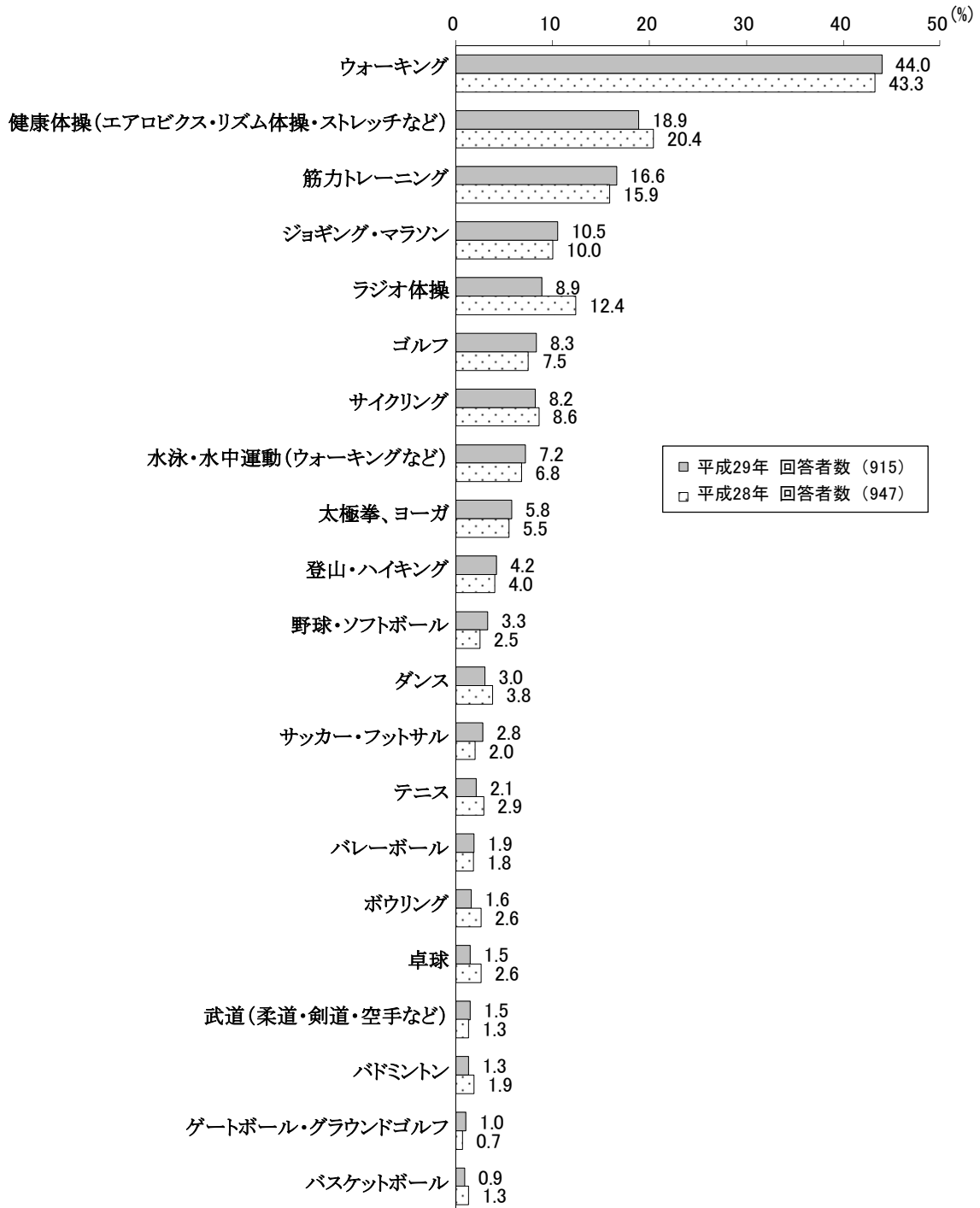
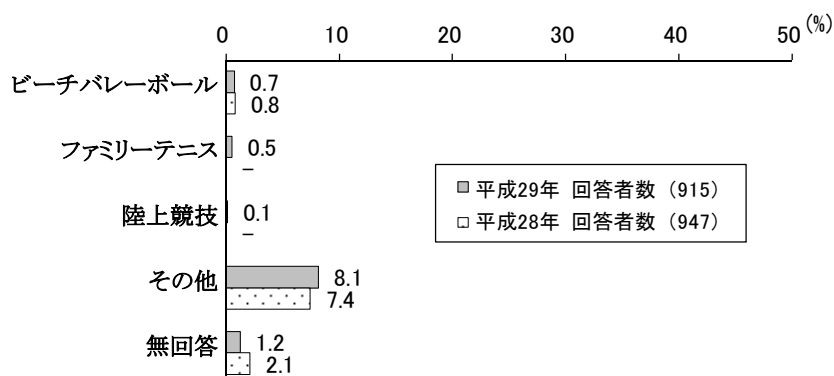


図6-2-1-② 前回調査比較／継続的に実施している運動・スポーツ



何らかの運動・スポーツを行っている人に、その内容を聞いたところ、「ウォーキング」が44.0%で最も高く、以下「健康体操（エアロビクス・リズム体操・ストレッチなど）」（18.9%）、「筋力トレーニング」（16.6%）の順で続いている。

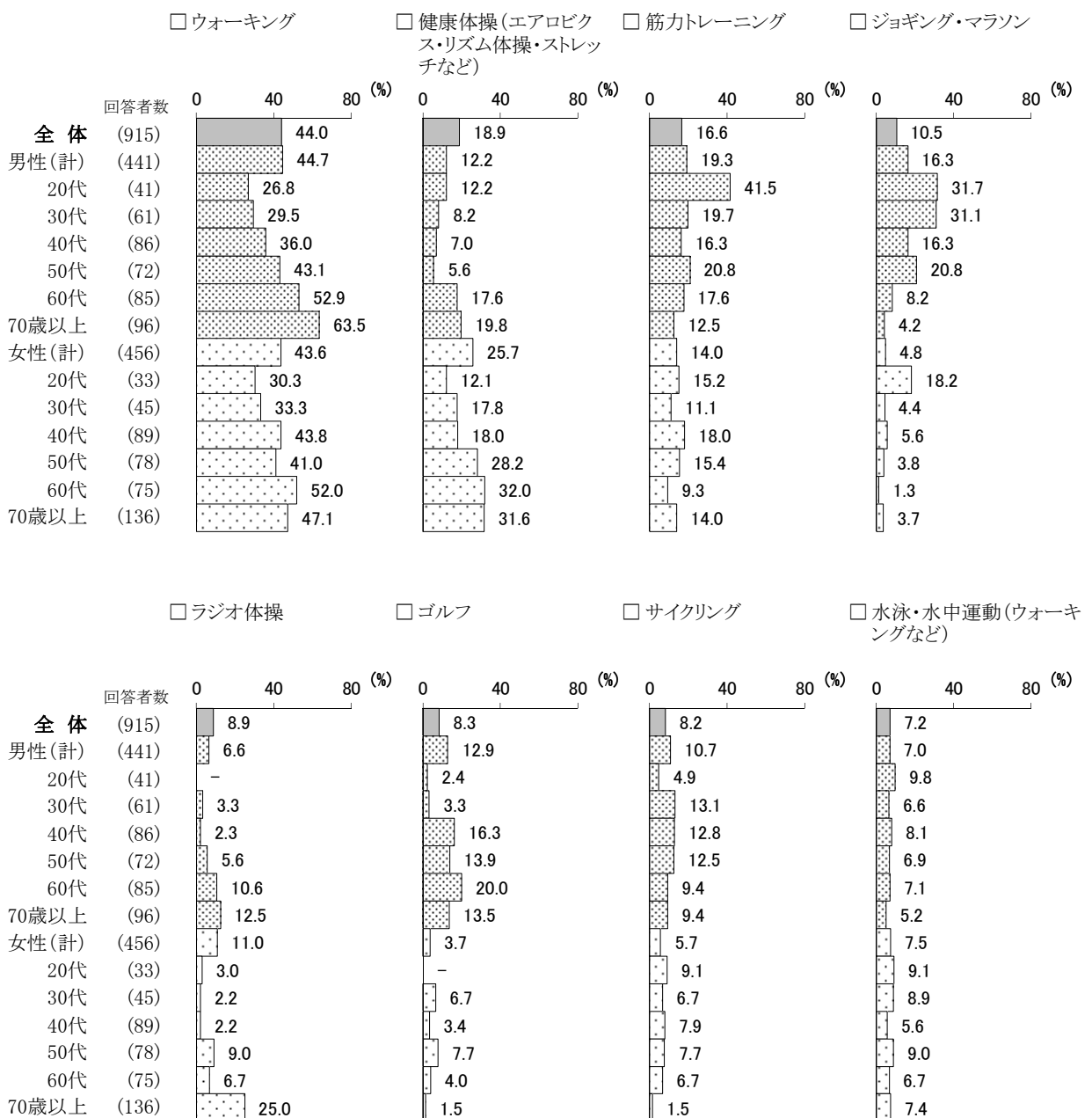
経年でみると、順位、比率に大きな変化はみられない。

性別で見ると、男性では「筋力トレーニング」が19.3%と、女性（14.0%）を上回っている。一方、女性では「健康体操（エアロビクス・リズム体操・ストレッチなど）」が25.7%と、男性（12.2%）を上回っている。

性・年代別で見ると、男性では、20代で「筋力トレーニング」が41.5%と、他の年代より高くなっている。70歳以上では「ウォーキング」が63.5%と高くなっているほか、60代でも52.9%と5割を超えている。

女性では、50代、60代、70歳以上で各年代とも「健康体操（エアロビクス・リズム体操・ストレッチなど）」が3割前後となっている。60代では「ウォーキング」が52.0%を占めているほか、40代、50代、70歳以上でも4割を超えている。

図6-2-2 性別、性・年代別／継続的に実施している運動・スポーツ／上位8項目



(3) 運動・スポーツを行っている場所

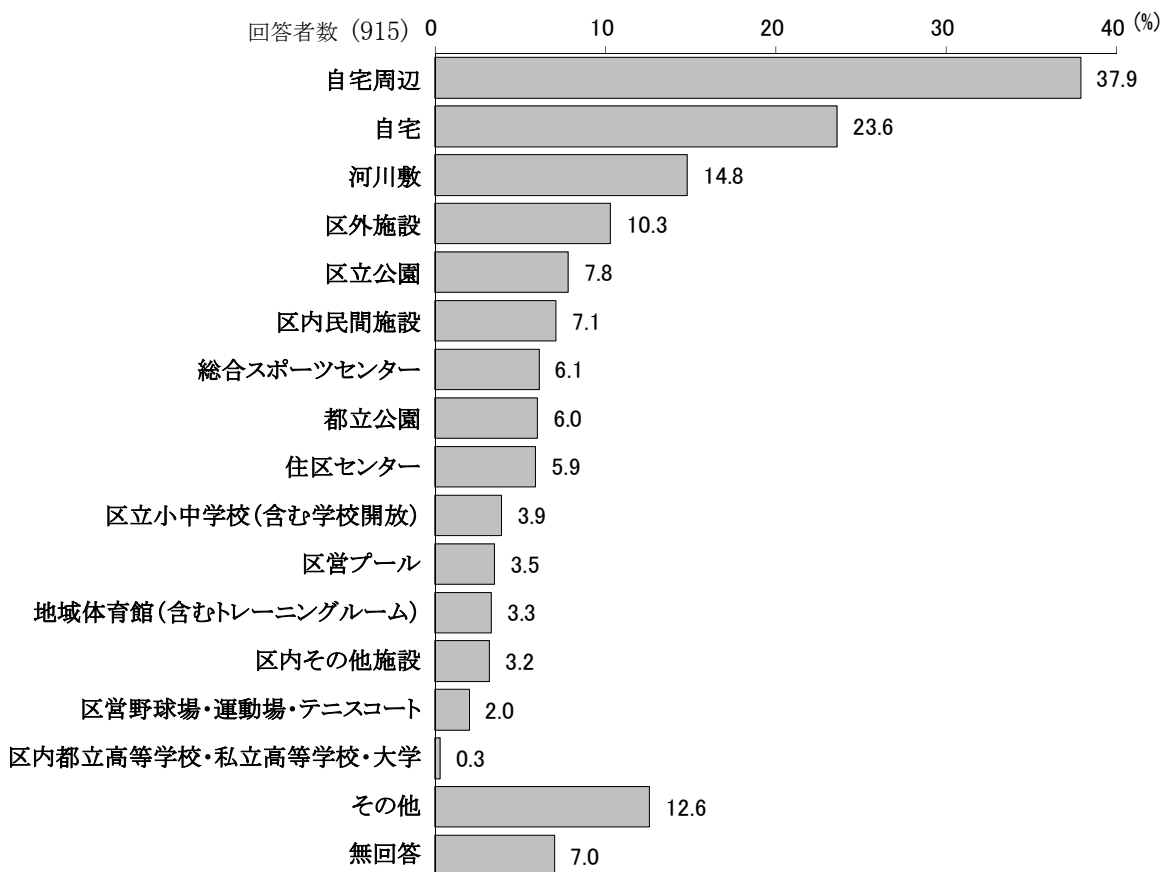
■ 「自宅周辺」が3割台後半、「自宅」が2割台前半

問22で1～5のいずれかをお答えの方に

問22-2 あなたは、運動・スポーツをどこで行っていますか。

(○はあてはまるものすべて)

図6-3-1 運動・スポーツを行っている場所



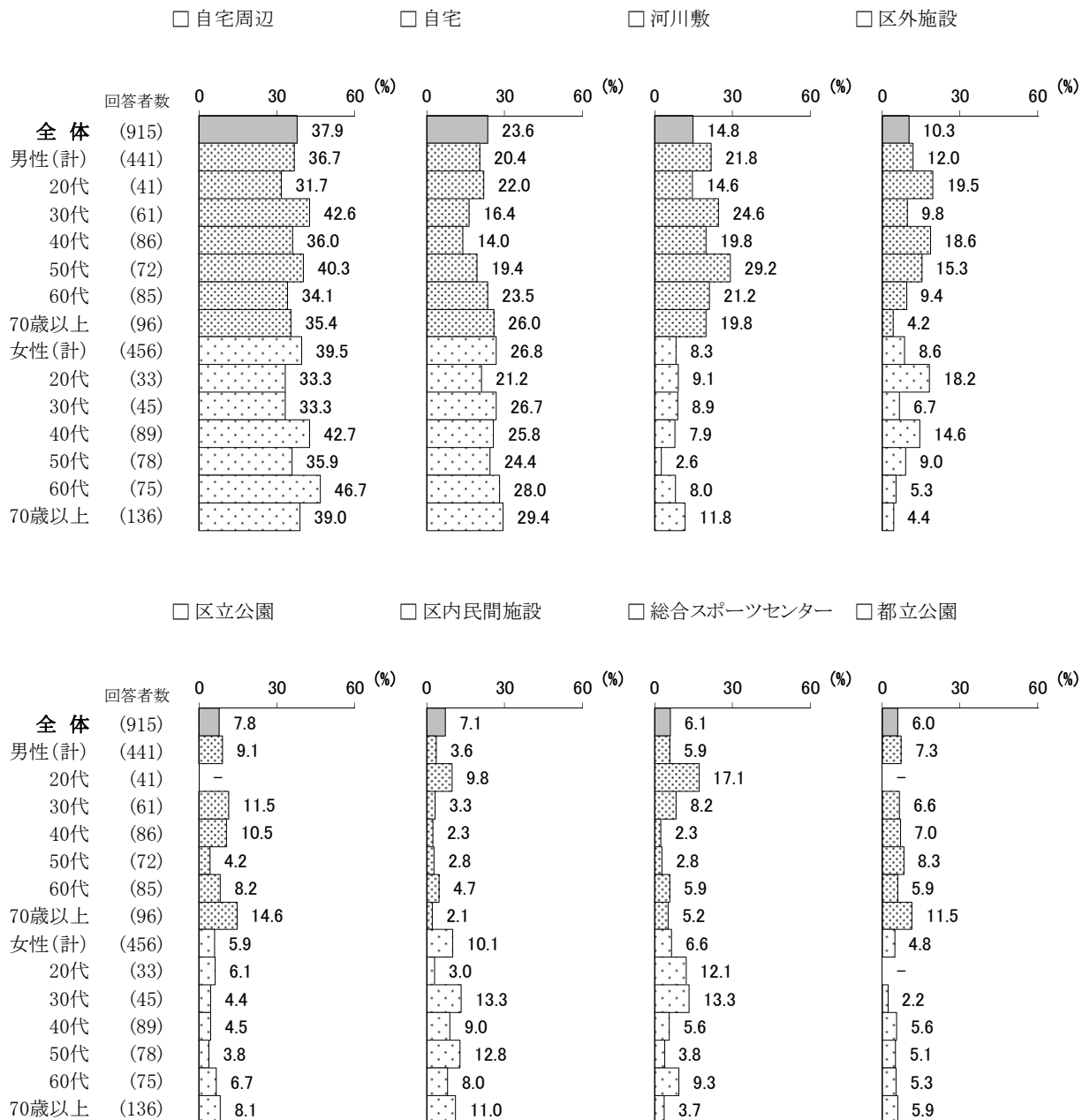
運動・スポーツの実施場所としては、「自宅周辺」が37.9%で最も高く、以下「自宅」(23.6%)、「河川敷」(14.8%)の順で続いている。

性別でみると、男性では「河川敷」が21.8%と、女性（8.3%）より高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、30代、50代で「自宅周辺」が4割を超え、他の年代より高くなっている。

女性では、60代で「自宅周辺」が46.7%を占めているほか、40代、70歳以上でも4割前後となっている。

図6-3-2 性別、性・年代別／運動・スポーツを行っている場所／上位8項目

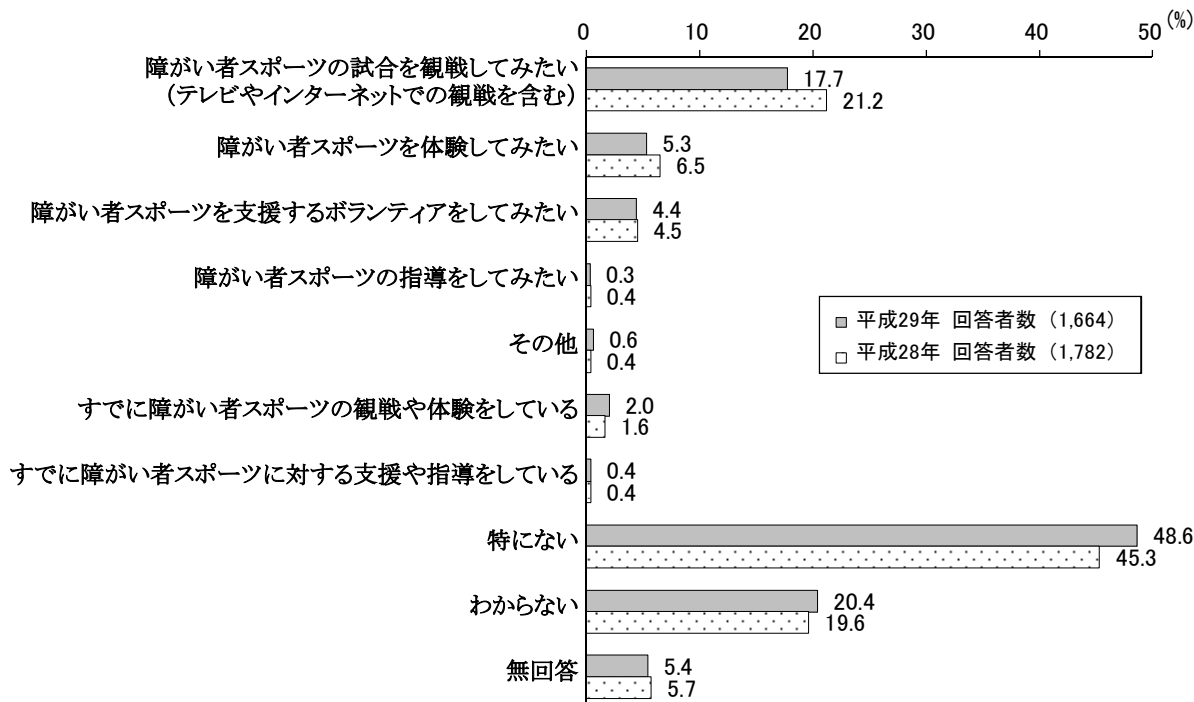


(4) 障がい者スポーツへの意識・行動

■ “観戦してみたい” が最多

問23 あなたは障がい者スポーツについてどのようなことをしてみたいですか。
 (〇はあてはまるものすべて)

図6-4-1 前回調査比較／障がい者スポーツへの意識・行動



障がい者スポーツについては、「障がい者スポーツの試合を観戦してみたい (テレビやインターネットでの観戦を含む)」が17.7%で最も高く、以下「障がい者スポーツを体験してみたい」(5.3%)、「障がい者スポーツを支援するボランティアをしてみたい」(4.4%)の順が続いている。一方、「特にない」は48.6%となっている。

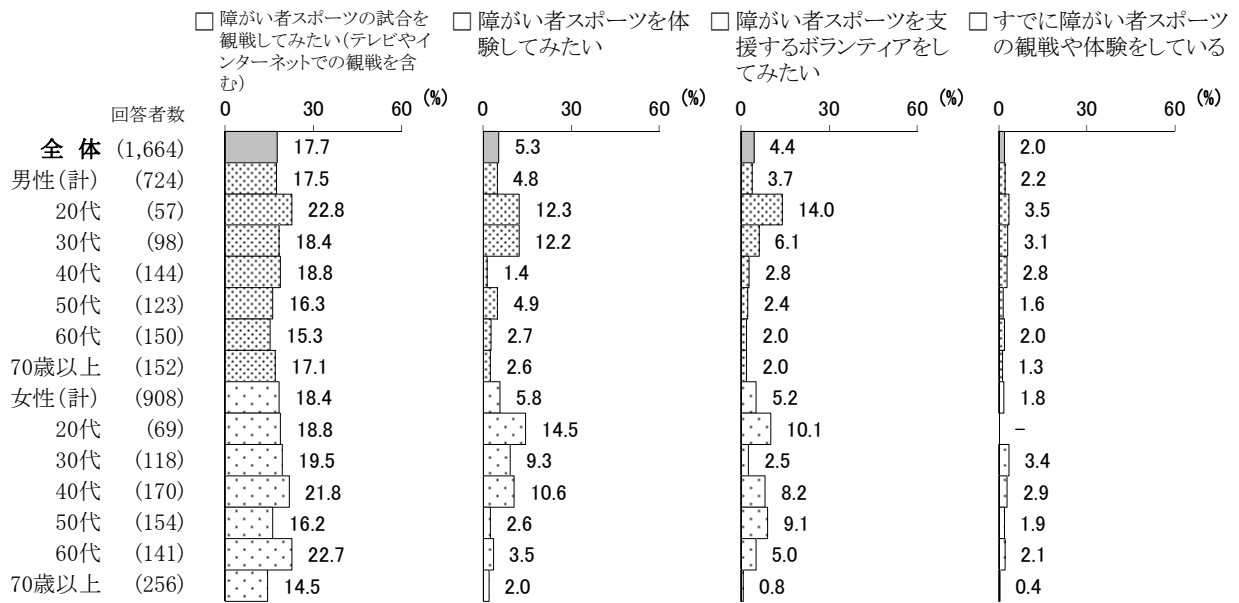
経年でみると、「障がい者スポーツの試合を観戦してみたい (テレビやインターネットでの観戦を含む)」が微減している。

性別でみると、大きな男女差はみられない。

性・年代別でみると、男性では、20代、30代、40代で「障がい者スポーツの試合を観戦してみたい（テレビやインターネットでの観戦を含む）」が2割前後と、他の年代よりやや高くなっている。

女性では、50代、70歳以上を除く各年代で「障がい者スポーツの試合を観戦してみたい（テレビやインターネットでの観戦を含む）」が2割前後を占めている。

図6-4-2 性別、性・年代別／障がい者スポーツへの意識・行動

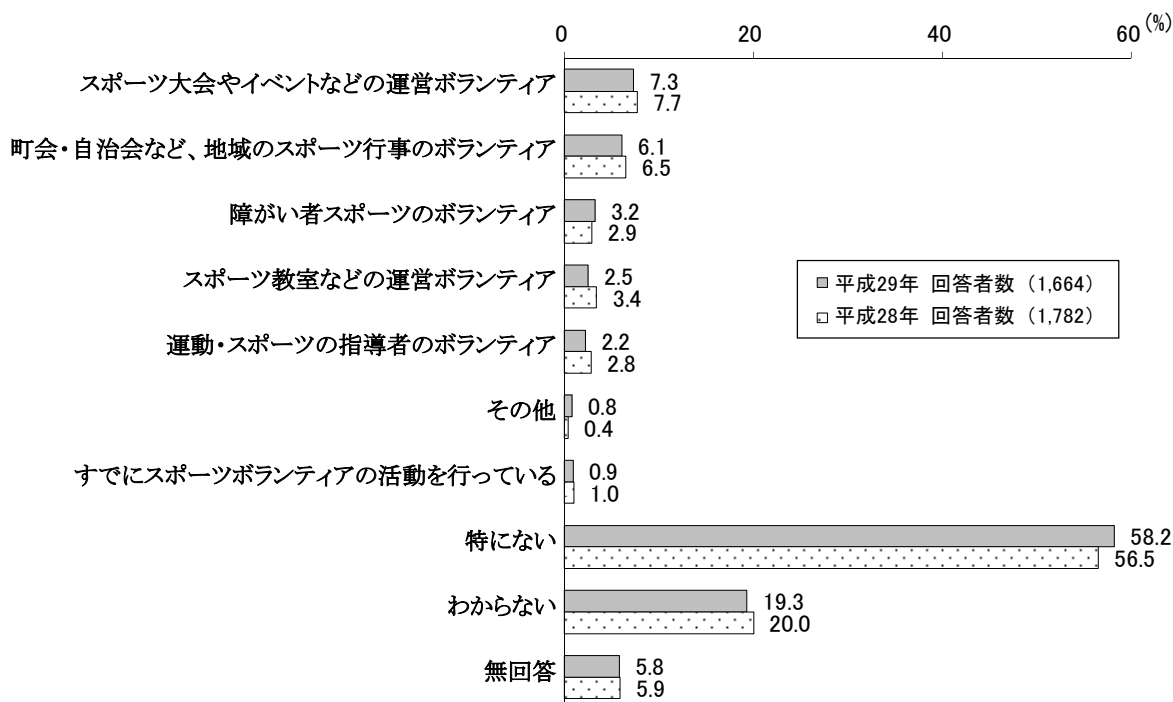


(5) スポーツボランティア活動への意識・行動

■ “運営ボランティア” “スポーツ行事のボランティア” が上位も6～7%

問24 あなたはスポーツボランティア活動についてどのようなことをしてみたいですか。
(〇はあてはまるものすべて)

図6-5-1 前回調査比較／スポーツボランティア活動への意識・行動



スポーツボランティア活動については、「スポーツ大会やイベントなどの運営ボランティア」が7.3%で最も高く、以下「町会・自治会など、地域のスポーツ行事のボランティア」(6.1%)、「障がい者スポーツのボランティア」(3.2%)、「スポーツ教室などの運営ボランティア」(2.5%)の順で続いている。一方、「特になし」は58.2%となっている。

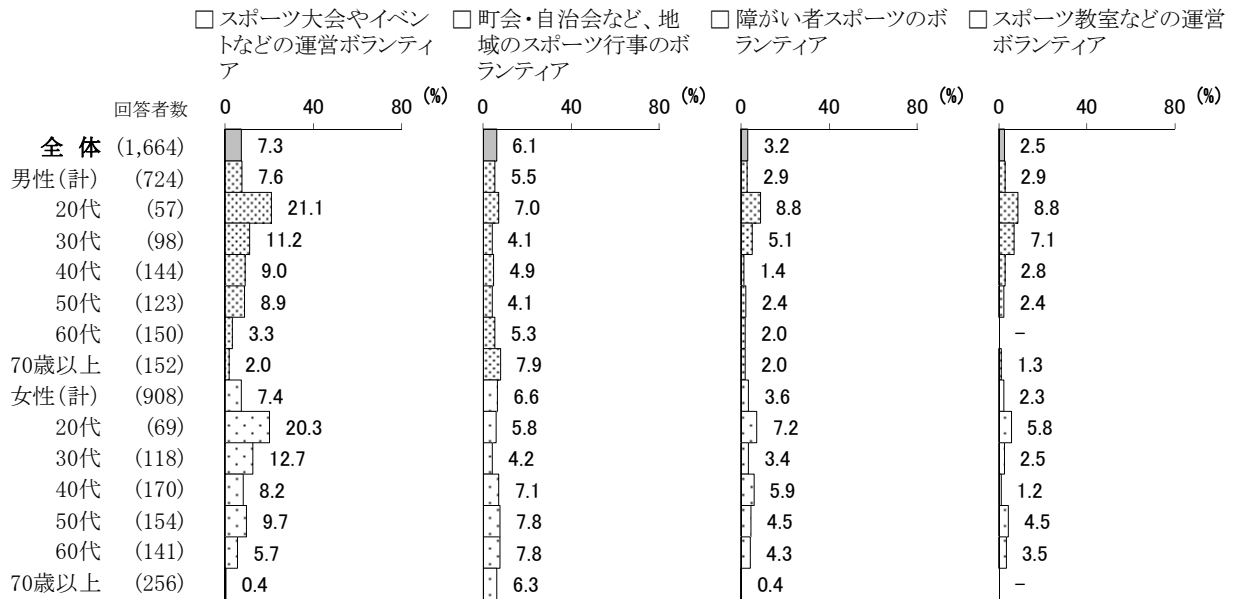
経年でみると、順位、比率に大きな変化はみられない。

性別で見ると、大きな男女差はみられない。

性・年代別で見ると、男性では、20代で「スポーツ大会やイベントなどの運営ボランティア」が21.1%と他の年代より高くなっている。

女性でも20代で「スポーツ大会やイベントなどの運営ボランティア」が20.3%と、他の年代より高くなっている。

図6-5-2 性別、性・年代別／スポーツボランティア活動への意識・行動／上位4項目

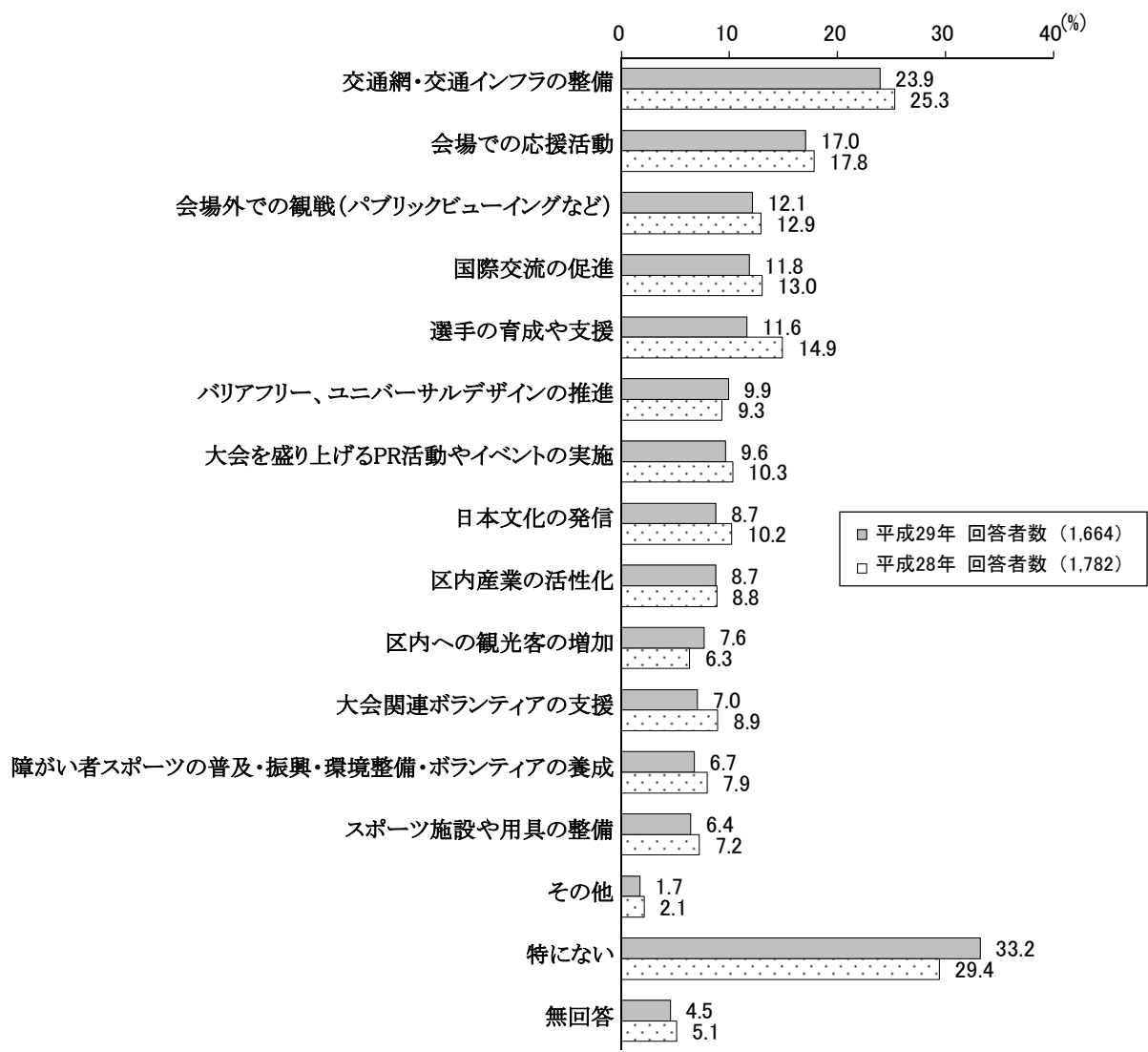


(6) 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた区の取り組みで関心があること

■ 「交通網・交通インフラの整備」が2割台半ばで最多も、「特にない」が3割を超える

問25 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、区の取り組みで関心があることは何ですか（○は3つまで）。

図6-6-1 前回調査比較
 ／2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた区の取り組みで関心があること



2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、関心のあることとしては、「交通網・交通インフラの整備」が23.9%で最も高く、以下「会場での応援活動」(17.0%)、「会場外での観戦」(12.1%)、「国際交流の促進」(11.8%)、「選手の育成や支援」(11.6%)の順で続いている。一方、「特にない」は33.2%となっている。

経年でみると、順位、比率に大きな変化はみられない。

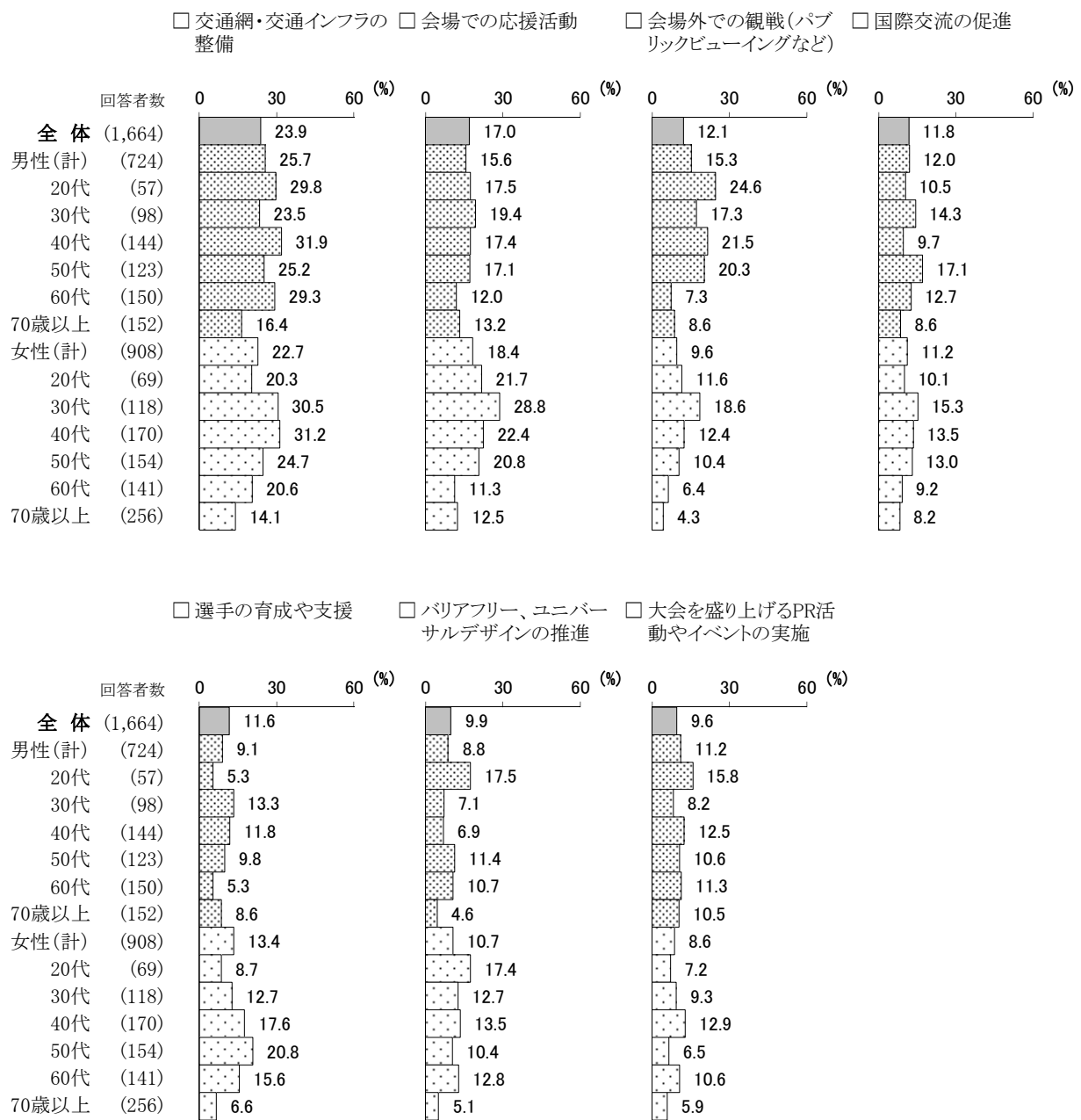
性別でみると、男性では「会場外での観戦（パブリックビューイングなど）」が15.3%と、女性（9.6%）より高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、20代、40代、60代で「交通網・交通インフラの整備」が3割前後となっている。また、20代、40代、50代では「会場外での観戦（パブリックビューイングなど）」が2割を超え、他の年代より高くなっている。

女性では、30代、40代で「交通網・交通インフラの整備」が3割を超えている。また、30代では「会場での応援活動」が28.8%と、他の年代より高くなっている。

図6-6-2 性別、性・年代別

／2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた区の取り組みで関心があること／上位7項目

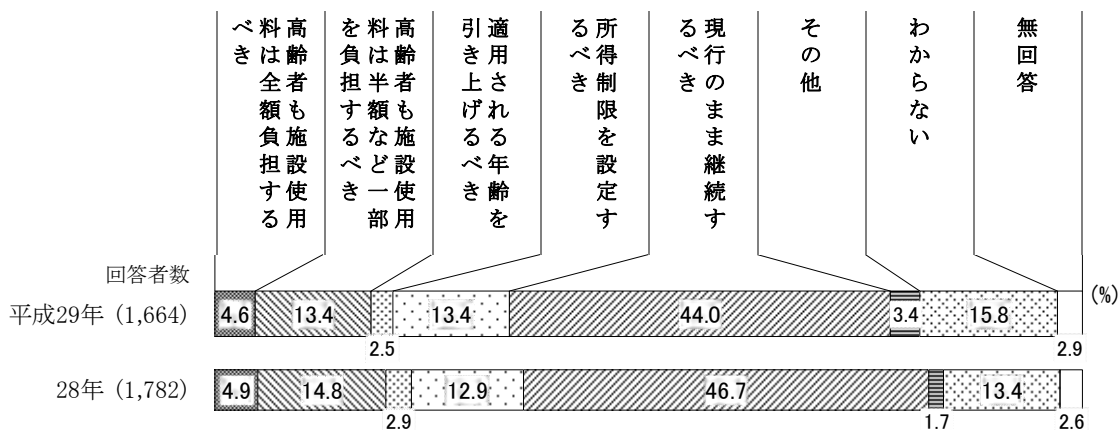


(7) 区のスポーツ施設における高齢者免除制度に関する意識

■ 「現行のまま継続するべき」が4割台半ば

問26 足立区の温水プールは65歳以上、その他のスポーツ施設は70歳以上の区民（高齢者）は無料で使用できます。この高齢者免除制度について、あなたの考えに最も近いものはどれですか（○は1つだけ）。

図6-7-1 前回調査比較/区のスポーツ施設における高齢者免除制度に関する意識



スポーツ施設における高齢者免除制度については、「現行のまま継続するべき」が44.0%で最も高く、以下「高齢者も施設使用料は半額など一部を負担するべき」「所得制限を設定するべき」（ともに13.4%）の順で続いている。

経年でみると、順位、比率に大きな変化はみられない。

性別でみると、「現行のまま継続すべき」が男性43.4%、女性44.5%となっている。

性・年代別でみると、男性では、20代、50代、70歳以上で「現行のまま継続すべき」が5割近くを占めている。

女性では、20代、40代、50代で「現行のまま継続すべき」が5割を超えている。

図6-7-2 性別、性・年代別／区のスポーツ施設における高齢者免除制度に関する意識

